

県北新名所案内③

「里山の恵みを誇りに」

神石高原日本ミツバチ研究所

神石高原町上の県道沿いに、巣箱作りの工房が併設されて

神石高原日本ミツバチ研究所  
はある。日本ミツバチの養蜂  
経験が約十年の東一史<sup>ひがしかずし</sup>さんが、  
昨年十二月に開設。養蜂の情  
報交換の場として様々なデー  
タや専門書を備えたサロンに、  
すばらしさ、里山の自然の豊

かさを生徒たちに体感しても  
りたい。熟慮を重ねてたど  
りついたので、日本ミツバチ  
の養蜂だった。

学校での養蜂への取り組み  
をホームページで紹介したと  
ころ、日本ミツバチの養蜂家  
から支援の申し出もあつて、  
秋には二つの巣箱（二群）から、  
それぞれ四キロの蜂蜜が取れ  
た。近隣のさまざまな花から  
ミツバチが集めてきた「百花  
蜜」。その豊穡な自然の恵みを、  
給食の時にみんなで味わった。

故郷の里山の味である。

東さんは、教師を定年退職  
後も、自宅で日本ミツバチの  
養蜂を継続。その生態の研究  
と養蜂技術の試行錯誤を重ね  
た。日本ミツバチは在来固有  
種で、和蜂とも呼ばれている。  
性格がおとなしく手間がか  
からないが、野生種ならではの  
困難もある。

まずは「分蜂」、巣別れであ  
る。完全人工飼育の西洋ミツ  
バチであれば、季節に関係な  
く、人工的に分蜂させること  
ができるが、日本ミツバチは  
桜の花などが咲く春に分蜂す  
る。新女王が生まれる前に、  
女王が半分の蜂を連れて巣を  
離れ、新たな場所で営巣する。  
それを新しい巣箱に取り込め

ればいいのだが、これが難し  
い。

群を新たに迎え入れる巣箱  
のことを「待ち箱」という。  
蜂に気に入ってもらえるよう  
に工夫をする。東さんが使用  
しているのはハイブリット型。  
中身をくり抜いた杉丸太の上  
に、蓋付きの重箱を乗せたも  
のだ。

丸太を使うのは、自然の樹  
のうろに近づけるため。内部  
に蜜蝋を塗り、蜂を誘引する  
という金陵辺（東洋蘭の一種）  
の切り花をネットに入れて、  
丸太の下端に設けた巣門（巣  
穴）の前にセットする。情報  
収集と経験の積み重ねで、巣  
箱の大きさや巣門は、ミリ単  
位で寸法が決められている。

入居した群は、丸太の内壁  
を伝って重箱の天井に営巣を  
開始する。その営巣中の重箱  
を持ち上げて、用意した基台  
に乗せると、そのまま飼育箱  
に変身する。しかし、分蜂に  
成功しても、日本ミツバチに  
は「逃去」というやっかいな  
習性がある。

西洋ミツバチは、いったん  
営巣し始めると、永住するの  
が前提で巣箱に強固な壁を塗  
り固める。日本ミツバチは、  
何か気に食わないことがある



サロンの隣に巣箱作りの工房を併設

と次の営巣場所に逃去する。体格で劣る和蜂の防衛本能だとも言われている。積極的に逃去することで、群の安全を確保する。

順調に飼育箱を増やしていた東さんだったが、平成二十六年にアカリンドニの被害で十七群が全滅した。肉眼では見えない小さなダニが蜂の気管内に寄生、数を増やして気管を詰まらせる。全国的な流行で、蜜蜂全滅の危機だと言われた。

一時は養蜂を断念した東さんだったが、翌年の春に待ち箱を仕掛けてみると、蜂が入居してくれた。野生の蜂は、逞しく生き残っていたのである。逃去による群の分断が、感染を防いだのではないかと東さんは推測している。今はアカリンドニの対処法も研究され、東さんの飼育箱も七群まで回復している。

日本ミツバチ研究所は、山本自動車工業（自動車販売、整備&修理他）の県道を挟んだ前にある。以前は山本自動車のバイクの展示場だった建物間借り。山本宰士社長は、東さんの養蜂仲間だ。日曜日一度、巣箱を点検&掃除するだけの週末養蜂でも、日本ミツバチの飼育は十分に可能

だという。

日本ミツバチの蜂蜜は、西洋ミツバチに比べて採蜜量が五分の一で、ビジネス向きとは言いがたい。しかし、その希少性から人気は高く、高値で売買されている。野生種なので、自然環境には敏感だ。環境問題を包含した学習テーマとして、教育の場でも注目されている。地元の県立油木高校の産業ビジネス科では、東さんの指導のもと研究課題として、日本ミツバチの養蜂がこの春からスタートする予定。

「故郷の特産品として定着すれば、新たな産業が創設できます。和蜂が増えれば、耕作放棄地を花畑にして蜜源をつくるなど、環境も良くなるはずです」と東さん。

和蜂愛好家の蜂キチにとって、これから待ち遠しかった分蜂の季節が始まる――。

日本ミツバチ研究所の営業は、土、日、月曜の午前10時から午後5時まで。一回千円で巣箱作りなどの講習を受けられる。他の曜日希望者は、電話にて要相談。連絡先は東さん（☎090-2864-8136）。

## 新・図書館員ノート「思い出の一冊」①

### 「せとうちたいこさんデパートいきタイ」



私の思い出の一冊は長野ヒデ子さんの絵本「せとうちたいこさんデパートいきタイ」です。この絵本の主人公はなんでもやってみたい、タイのお母さん「せとうちたいこさん」

今日も海からでて二本足にハイヒールを履いてデパートへお出かけ。デパートをあちこち歩きまわり「〇〇したいー」と、お買い物したり、食堂で

アイスを食べたりと好奇心いっぱいです。

あれ、たいこさん私に似てる。どこにでも出かけていくとこ、失敗するけどめげないとこ、最後に必ず「やっぱりうみがいちばんいいわ」と言いながら「またでかけたーい」と出かけていくとこ。

こんな楽しい絵本を描く長野ヒデ子さんは、どんな方だろうと思っていると、吉田に講演会に来られると聞き「あいたーい」と出かけていきました。長野さんは「瀬戸内の今治出身。名産の鯛をモデルに絵本を描きたいと思ってきたこと。元気なたいこさんはシリーズを重ねるたびに、こだいちゃんが増えていくこと」と、こぼれ話と読み語り満載の講演会でした。

そして納得。私も瀬戸内「尾道」生まれ。終わってからのサイン会で長野さんに話すとサインのコメントに「おのみちのたいこさんへ」と入れてもらい感激。

講演会から15年。今でも懲りずに「たいこさん」やっています。



# 増川宏一『小さな藩の奇跡』

## —— 餓死者を出さなかつた藩

「明治維新150年」を振り返る

とき、その前提として、消え去った

藩のことが気にかかります。270

諸侯といわれたなかで、一番小さい

藩、伊予小松藩について記した増川

宏一『小さな藩の奇跡』（角川ソフイ

ア文庫、16年刊）が、その一面をつ

ぶさに再現しています。

伊予小松藩は、今の愛媛県小松町

（現西条市の一部）にあつた武士60

人、足軽40人、藩内人口1万人余の

小藩です。改易や取りつぶしをされ

ることなく江戸時代を生き抜いた、

あっぱれな藩といえます。家老が政

務を書き継いだ会所日記が残されて

おり、それを元に往事を描いており、

「伊予小松藩会所日記を読む」との

副題がついています。

藩主は外様大名の一柳家で1万石。

城はなく、陣屋だけ。家老職は1人

で、喜多川家が世襲し400石。改

易につながる悪評を極度に警戒し、

領内安定、近隣藩との友好に勤めた

ことが藩の特徴に挙げられます。何

よりの証拠は、江戸期に何度も飢饉

に襲われますが、餓死者を1人も出

さなかつたことは特筆されます。

台所が豊かだったわけではありま

せん。それどころか、慢性的な財政

に藩財政を圧迫したかが分かります。

参勤交代は、船で8、9日かけて

大坂に出、蔵屋敷で数日休息、再び

船で京都・伏見までさかのぼり、そ

こから徒歩で13、14日間で江戸

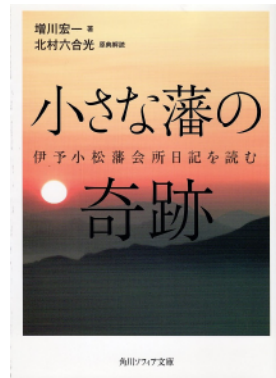
に向かったのです。総勢110人。

往復経費1200両。

### また読んでみたい本<sup>25</sup>

#### 青年たちに

音谷 健郎



古今東西の文学には  
たくさんの名作があり  
ます。そんな名作  
の中から筆者の心に  
残る作品を今の青年  
たちにも読んでもら  
いたいと思います。毎  
月1冊ずつ紹介してい  
ます。

#### 【小さな藩の奇 表紙】

第25回は、増川宏一の『小さな藩の奇跡』  
です。もし興味を持ったらぜひ読んでみ  
てください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞  
記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在  
住。大阪文学学校講師

士は、御暇乞いし、妻敵討ちに出て  
消息を絶っています。

足軽が泥酔して農夫を斬った時に

は、足軽は「永の御暇」となりまし

た。農民を斬ることは堅く禁じられ

ていたのです。寛政年間（1789

年）には目明かし「半平」の名が

何度も登場します。事件はほとんど

が窃盗です。「裕（あわせ）羽織1枚」

「帯1筋」などと。半平は、質入れ

したこれらの品を探し出すのが得意

でした。

百姓一揆はありませんでした。寛

政2年（1790年）、2千人の農

民が集まった時には、僧侶と藩士が

説得。首謀者は死罪ではなく、領外

追放としています。寛刑です。

幕末の戊辰戦争には、官軍の一翼

を担って総勢51人が近隣の諸藩と合

流し越後に陣、1人の死者を出し

ています。凱旋し藩から各20両が下

賜されています。

明治2年、藩主は小松藩知事にな

りますが、明治4年廃藩置県で小松

藩知事という職務はなくなります。

子爵が与えられました。

会所日記を通じて、小藩の堅実な

生き残り方が伺えます。

（今回は、海音寺潮五郎『西郷と

大久保』です）。

不足で、家老は実質170石程度の  
時もあつたのです。

財政を見ると、年貢米の半分弱を

銀に換え、その大半が参勤交代と江

戸屋敷の維持費。残る年貢米で家臣

の給与や藩役所の経費をまかなって

います。1年置きの参勤交代がいか

虫と草木と人びとと ⑬ 中村慎吾

## 「比和一日一話―余滴・前編」

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びとと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

### 雪の中の暮し

「百日雪の下」という厳しい長い冬、寒冷多雪に対応して先人たちは多くの生活の知恵を残してくれた。

壁はオオカベという厚さ五十センチにも及ぶものとし、軒を低くして防風防寒にも対応できる工夫がなされている。

家屋を積雪から守るため、頑丈な材料を用い、大黒柱という主柱のほかにヒマワリなどと呼ぶ大きな柱を持ち、木組にも工夫をくわえ、屋根の勾配を急にして帯氷雪を少なくし、

家の間取りも土間を広くし、厩舎を母屋の内に設けていることも特徴的なことで、土間をニワと呼び、冬季の作業場に当てていた。母屋内に厩舎を設けていたことは和牛の飼育が盛んであった比和にとって冬季の

飼育管理上、当然のことであろう。農業の構造変化、和牛飼育の衰退に伴って広がった土間も、母屋内の厩舎も消え、そこにはいろいろにかわって欧風の応接間が占めるようになっていたが、かつて、いろいろを囲みられた家族団らんの情景が失われたのは淋しいことである。

厳しい長い冬を過ごすには何よりも食料と燃料の確保が大切であった。

「米一升よりも薪の一本」とか、「木飯米」という俚諺は雪の中の暮しで何よりも燃料の確保を訴えた教訓的なものといえよう。後には「米を借りても木は借りるな」という意味にも「木飯米」が用いられているところからも燃料の借用は不名誉なこととて、十分備蓄をしておくことが強調されていたといえる。

家の近くの畑に土を深く掘り、ワラを幾重にも敷いて作った野菜の貯蔵庫に、秋に収穫しておいた大根・

白菜・イモ類を貯え、冬季の重要な副食物としていた。この生野菜にまして塩漬や乾燥させて保存していた野菜・山菜は単調な雪の中の暮しに色彩を添えていた。白菜・大根の漬物はもちろんのこと、味噌漬・粕漬・糶漬など、多彩な漬物類は主婦たちの生活の知恵の結晶で、「お茶」と呼ぶ近所との語らい、憩いのおときの大切な風物となっていた。ワラビ、ゼンマイ、サンショウ、キノコなどの塩蔵の山菜、ホシカブ、ズイキ、カチグリなどの乾燥食品、それらを戻して雪の下で味わい、厳しい長い冬の中で萌える新緑の季節を待っていた。

薪や木炭にかわって石油が入ったこの頃、「木飯米」という俚諺は消え、冬の単調な暮しに色彩を添えていた保存食品も徐々に消えようとしており、生活の知恵は過去の中に埋れそ



寿山ツヨ子「農婦」(1972年水彩画)  
夫婦展記念「寿山五朗・ツヨ子画集」より転載

## 春を待つ

長い冬を耐えてきただけに、春を迎える感慨はひとしおである。

二月も終りとなると雪解けが始まり、溪流のせせらぎも音高くなる。溪畔の多くの樹木の芽はまだ固いが、マンサクはそろそろ枝間に黄色い花をほころばし始める。比和ではマンサクのことを「たにいそぎ」と呼ぶ。谷間に春の到来を急いで告げる花という意味から名づけられたように、先人たちは「たにいそぎ」の開花に、長かった冬の終りを読みとっていたといえよう。「たにいそぎ」は三月中旬、満開となり、やがて、谷間の黄色はダンコウバイといれかわる。その昔、屋根にふいた栗材の「そぎ」を止める木釘に用いたミスキ（方言でえんじ）の小枝も赤く染り始める。

一月遅れで「桃の節句」を祝う頃、ヨモギの新芽が枯草の中から芽生え、草餅に春の香を加える。そして、田圃を覆うタネツケバナの白い花が見られるようになると、苗代の準備に忙しくなる。

春霞にかすむ淡紫かつ色の山肌には白いコブシの花が開き始めると農事はいよいよ忙しくなる。コブシの花は種まき、植え付けの適期を知る上

での目安として山村の人々に古くから親しまれていて「遅れた苗代の種まきもコブシの花の一番咲を見てまいても追いつく」、「コブシの多い年は豊年」などの俚諺も今に伝えられている。町制五十周年を記念して制定された町花にコブシが町民の多くの支持を受けて選定されたことは、もつともなことである。

コブシはモクレン科の落葉高木で、落葉広葉樹林の多い比和の山々に多く自生し、新葉が出る前に芳香のある白い大きな花を枝につける。コブシの語源は「拳」に由来しているようで、つぼみの形が拳に似るところから名付けられたという。コブシに花が酷似するタムシバも比和に多く、比和では両者を区別せず、すべてをコブシと呼んでいる。因みに、タムシバは葉がコブシに比べて幅が狭く、葉先が急にくびれて突出してないこと、葉の裏が白いこと、花の基部に若葉がなく、がく片が花びらと同質で長さが花弁の二分の二であること、などで区別される。

コブシの花が散る頃、新芽が一斉に萌え出し、山は淡緑、淡紫、嫩黄など和やかな色の限りを尽くし、日増しに変化する山の情景は人の心をつかんで離さないものがある。

## 老いの雑記帳②

### 「ブス」

- 『ブスの二十箇条』というのを、サ店のママが面白半分私に私にくれた。その内の何箇条かを友人に見せてやったら爆笑した。
- (1) ブスは笑顔がない。
  - (2) ブスはお礼を言わない。
  - (3) ブスはおいしいと言わない。
  - (4) ブスはグチをこぼす。
  - (5) ブスはいつも周囲が悪いと思っている。
  - (6) ブスは自分がブスであること知らない。
  - (7) ブスは声が小さく、いじけて



- (8) ブスは何でもないことに傷ついている。
- (9) ブスは他人に嫉妬する。
- (10) ブスは目が輝いていない。
- (11) ブスはいつも口がへの字の形をしている。
- (12) ブスは責任転嫁がうまい。
- (13) ブスは他人をうらむ。
- (14) ブスは悲観的に物事を考える。
- (15) ブスは問題意識をもっていない。
- (16) ブスは他人に尽くさない。
- (17) ブスは他人を信じない。
- (18) ブスは謙虚さがなく傲慢である。
- (19) ブスは他人のアドバイスや忠告を受け入れない。
- (20) ブスは存在自体が周囲を暗くする。

《ブス》という言葉は《老人》に置き換えてみると、ママのウイットがニクイ。

「思いのままに」我が心の雑記帳」(鈴木澄夫著)より

風が吹いている。目に見える風だ。桜の花弁が舞うように落下する。

「藤本六段、二十三連勝！」

スポーツ新聞の一面に、まだ十五歳の少年のあどけない笑顔が載っている。一昨年の十二月に、史上最年少の四段プロ棋士としてデビューして以来、破竹の快進撃が続いている。僅か一年半で六段に昇段、これも新記録だ。天才棋士の登場は、マスコミで大々的に報道されている。

わたしは、この天才に勝ったことがあるのだ。奨励会の三段リーグで対戦した。奨励会とは将棋のプロ棋士の養成機関で、最初は6級からスタートする。その最上級クラスが三段リーグで、成績の上位者二名だけが晴れて卒業、四段プロ棋士となることができる。

かつてはわたしも天才と呼ばれた。舛田幸三以来の天才……、この呼び名は荷が重かった。実縁制第四代名人舛田幸三、将棋に興味がない人でも名前ぐらいは聞いたことがあるだろう。「新手一生」を掲げ、序盤戦法に革命をもたらした伝説の棋士である。

同じ三良坂町出身ということ、舛田二世と呼ばれた。奨励会に入る前は、わたしもその気になっていた。

井の中の蛙だった。各地から天才が集まってくる。わたしの天才は普通だった。

それでも八年の歳月をかけて、三段リーグまでたどりついた。二十歳になっていた。ここを勝ち抜けば、プロ棋士になることができる……。すべてを将棋にささげた。研究会にいくつも参加して、家にいるときもパソコンで棋譜を調べていた。寝て

## 「サクラチル」

あきふゆひこ  
亜木冬彦

現代御伽草子 23

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

いる間も、夢で詰め将棋を解いている。一カ月ほど前に、去年の十月からスタートした後期の三段リーグが終了した。出だしは三連勝と好調だった。しかし、四戦目に優勢な将棋を終盤のポカで逆転負け。それから

負けたりを繰り返した。

三段リーグは、二十五歳で奨励会退会という年齢制限がある。サクラチル……、最後の対局のあとで、その言葉が脳裏をよぎった。奨励会という長い長い受験が終わったのだ。

新聞を折りたたんで、求人広告に目をやった。社会人として働かなくてはならない。最終学歴が中学卒業の自分に、いったい何ができるだろう。まっすぐ三良坂の実家に帰るこ

た。わたしは苦笑を浮かべて、少年に新聞を差し出した。わたしの隣のベンチに腰かけて、五分も新聞に見入っていただろうか。「ありがとう」と言って新聞を返してきた。

「もういいの？」

「全部、やったけん」

「三問とも？」

少年が頷いた。信じられなかった。初心者向き、中級者向き、上級者向きの三問である。上級者向きの問題は、「二〇分以内で解けば三段並み」という但し書きが書かれている。

「本当に？」

少年はムツとした顔をして、指さしながら詰め手順を説明した。三問とも正解。上級者向きの問題は十五手の長手順だ。

「ちょっと待ってね」

わたしは旅行鞆の中から、将棋の駒を取り出した。ベンチに紙の盤を広げて、駒を置いて詰将棋の問題を作った。新聞の上級者問題よりもさらに難易度を上げている。

少年の顔が輝いた。ジツと盤上を睨んでいる。五分も考えていただろうか。小さく頷いて盤上の駒に手を伸ばした。正解！難易度の高い十七手詰めを五分で解くのは、プロ棋士でも難しい。

とができなくて、こうして尾関山公園で時間をつぶしている。

(うん?)

カープの赤い帽子が目に入った。新聞をたたむと、少年が目の前に立っている。まだ小学校に入ったくらいだろうか。

「どうしたの？」

「詰将棋……」

少年はそう言って、新聞を指さし



(これならどうだ)

大道詰将棋の問題を並べた。上京したての頃、祭りの縁日でやっていった。大きな盤に大きな駒、柘植の手彫りの駒が賞品だった。

(なんだ、簡単じゃないか)

盤上に手を伸ばした。さあ、これで詰みだと思った途端、初老の痩せた男が自分の香車を取り上げて、わたしの陣地の玉将の上にチョコンと置いた。おかしいとは思っていたのだ。通常の詰将棋は、玉将一つだけだ。それが、実際の対局のように、玉将と玉将が配置されていた。

「はい、三千元!」

「エッ、三百円でしょ?」

「ここにちゃんと書いてあるだろ」

盤の横に置かれた立て札に「将棋に負けたときは料金は十倍になります」と小さな文字で書いてある。「にいちゃん、ルールは守らなアカンよ」

客だと思っていた隣の男に、肩を掴まれてそう言われた。

(こんな子どもに、何をむきになってるんだ)

いつの間にか、少年の背後に四十四がらみの男が立っている。父親だとすぐにわかった。切れ長の目元がそっくりだ。

「何歳で将棋を始めたんですか?」

父親に尋ねた。

「一度もやったことがないんです」

「そんな……」

「興味はあるようですが、わたしが将棋のルールを知らないの、相手をしてやれんのです」

「でも、これだけ詰将棋ができれば……」

「詰将棋だけです。家に古い詰将棋の本がありますね。確か、将棋図巧とかいう名前だったかな」

すぐにわかった。江戸時代の将棋指し、伊藤看寿の詰将棋の作品集だ。

幕府に献上するために編纂された。

原書名は「象棋百番奇巧図式」、兄の七世名人三代伊藤宗看の「将棋無双(象戯作物)」と並んで、詰将棋の最高峰と言われている。

「全部、解いたんですか?」

「そのようすね」

あっさり言ったが、第百番の詰将棋は六百十一手もかかるのだ。しかし、わたしはその話を信じた。少年はもう三十分も紙の盤を睨んだまま、一心不乱に考えている。少年が顔を上げたのは、それからさらに三十分以上も経ってからだった。

駒に手を伸ばした。ぎこちない指さばきだが、確実に玉将を追いつめて行く。途中のいくつかの罫をくぐりぬけて、三十七手で玉将は見事、詰み上がった。

「お父さん、わたしがこの子に将棋を教えます」

携帯電話を取り出して、登録している番号を呼び出した。

「山本です。ご心配をかけて申し訳ありません。この間の連盟の指導棋士の件ですが、ぜひ登録させてください。故郷で、将棋教室を開くんです……」

興奮した声で、かつての師匠に報告していた。

「お父さん、わたしがこの子に将棋を教えます」

携帯電話を取り出して、登録している番号を呼び出した。

「山本です。ご心配をかけて申し訳ありません。この間の連盟の指導棋士の件ですが、ぜひ登録させてください。故郷で、将棋教室を開くんです……」

興奮した声で、かつての師匠に報告していた。

「お父さん、わたしがこの子に将棋を教えます」

携帯電話を取り出して、登録している番号を呼び出した。

興奮した声で、かつての師匠に報告していた。

## まちの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
- ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL: 090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円 >

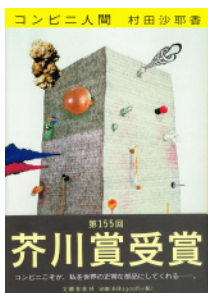


どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

## 「コンビニ人間」

村田沙耶香 著 文藝春秋

死んだ小鳥を拾った少女は、それをヤキトリにして父親に食べさせるんだと言い張る。喧嘩をしている男子の頭をスコップで殴って止めようとする。それがどうして悪いことなのか理解できない。やがて大人となった彼女は、コンビニで天職を得る。マニュアルに忠実に従うことで、社会の一員として認められたと実感。しかし、36歳になってもアルバイト店員として働く彼女に、世間の好奇の視線が……。



「正常な世界はとても強引だから、異物は静かに削除される。まっとうでない人間は処分されていく」。文学はマイノリティや弱者の痛烈な武器である、そんなことを思ってしまった。第155回芥川賞受賞作品。

## 「孤高の人」

新田次郎 著 新潮文庫

昭和初期に活躍した不世出の登山家、加藤文太郎の伝記小説。食糧や装備を独自に工夫して、1月の厳冬期の単独登山を次々と成功させた。「疲れると熊のように雪洞に潜って眠り、嵐が止むと、また歩いた。不死身の加藤文太郎、単独行の加藤文太郎と言われるようになった」。

人と打ち解けられない性格ゆえの単独行だったが、周囲に迎合して自分を偽ることを頑なに拒絶。ひとりだから慎重になれる。パーティが道を失うのは、おたがいに誰かをたよってしまうからだ。文太郎は技師の仕事でも独力で道を切り開く。しかし、孤高人は、たった一度だけ友人とパーティを組んだ冬の北鎌尾根で姿を消した。31歳の若さだった。



## 「記憶喪失になったぼくが見た世界」

坪倉優介 著 朝日文庫

18歳の時、バイク事故で記憶喪失になった美大生の手記。味覚の記憶も失っていて、食事未体験の連続。チョコレートの甘さに感激して、ワサビの辛さに衝撃を受ける。家族の庇護を受けながらも、18歳の幼児が手探りで社会生活に馴染んで、いや、挑んでいく過程が素直に綴られている。

「動く階段」のエスカレーター、「不思議な扉」のエレベーター。鏡で見る自分の顔も初対面だ。常識だと思われる日常の不条理さに、読者の方が気づかされることもある。



彼が自然相手の草木染職人になったのも、記憶を失った代償に、まささらな感性を得ることができたからかもしれない。

## どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

## どらくる俳壇

春荒れや三江線の捨てられて

近藤 昌平

補聴器に春の風音聞きにけり

原 博己

文庫本ポケットにある春の旅

片岡 正人

幻の寺院を尋ね初蝶と

隆 愚

ネジ巻けば春の振子が動き出す

赤川 冬人

## 投稿&寄稿

「高遠の桜」

M・A

願わくば花の下にて春死なん  
その望月の如月の頃

有名な西行法師の短歌である。平安時代末期に、武家の名門の家に生まれた西行は、二十三歳のとき出家、諸国を放浪して数多くの歌を遺している。

望月とは満月のこと、「如月の満

※投句を歓迎します。



月の夜に満開の桜の下で死にたいものだ」という意味。なんとも風雅な願望ではないか。  
如月は旧暦の二月で満月は十五日、それは釈迦の命日に当たる。生前に詠んだ自歌をなぞるように、西行は二月十六日に亡くなっている。

一日ずらしたのは、お釈迦様と同じでは恐れ多いと思ったのか。七十三歳の天寿を全うした。

桜の咲く時期になると、この西行の歌を思い浮かべる。もうひとつは、梶井基次郎の短編「桜の樹の下には」。作品は読んだことのない人で

も、「桜の樹の下には屍体が埋まっている」というフレーズは、どこかで目にしたり聞いたことがあると思う。そんな想いがするほどに、桜の花は妖艶な美しさをたたえている。

庄原市にも上野公園という桜の名所がある。子どもの頃の記憶が鮮明に残っている。断然に夜桜が良い。ぼんぼりの燈火に照らされた満開の桜は高嶺の花で、怖いほどに美しくかった。

大人になって見る上野公園の桜は、植え替えられたこともあって、

こじんまりとしている。そして、昼間見るソメイヨシノの花は、ピンクの桜色ではなく、白いのだ。これは、印刷された桜のイメージが影響しているのだと思う。写真はいくらでも色が補正、いや、補色できるのでから。

イメージ通りの桜に出会ったことがある。信州伊那の高遠城址公園のタカトウコヒガンザクラ、本当にピンクの桜色をしている。千五百本あると言われる桜の樹の下を歩いていると、その桜色が目の網膜から染み込んで、アルコールを飲んだわけでもないのに酩酊してくる。

(このまま)で瞑りたい……)

桜の樹の肥やしとなって、自分の血潮が毎年、花をピンクに染めるのだ。凡人をそんな感慨に浸らせるのだから、やはり天下第一の桜である。



香面堂さんのどら書房の消しゴムはんこが出来上がりました。色はサンフレッチェ・パープル。

## 庄原歴史探訪

# 「幻の神福寺」じんぶくじ 第四回 文責・寺岡隆行

朝鮮半島の年表の続きです。

**661年8月** 中大兄皇子は將軍阿曇比羅夫らを百濟救援に遣わす。

**同年9月** 軍兵5000余人(軍船170艘?)を豊璋の護衛として百濟の福信のもとに送る。

**662年1月** 百濟に兵器兵糧を与える。

**663年3月** 將軍上毛野君稚子らを遣わし、27000人を率いて新羅を討たせる。

**同年6月** 豊璋が福信を切る。

**同年8月17日** 新羅軍は州柔に至り、王城(州柔城・周留城)を囲む。熊津城から錦江を下ってきた劉仁軌ら唐軍は、軍船170艘で白村江に戦列を構える。

**同年8月27日** 初戦で敗北、白村江(はくすきえ)の戦いという。

**同年8月28日** 気象をみずにむやみに攻め、大敗、多くの者が水に落ちて溺死し、船の舳先もめぐらす事が出来なかった。

**同年9月7日** 州柔城が降伏。

**同年9月24日** 佐平余自信、達率憶禮福留や一般の人々は豆禮城(てれさし…全羅南道烏城?)に至る。

**同年9月25日** 日本に向かう。

**664年5月17日** 天智天皇の時、百濟の鎮將劉仁願は郭務悰らを遣わし、上表文を納めた函と献上物を進上する。

**同年12月12日** 郭務悰らが帰国。

**664年** 対馬島・杵岐島・筑紫国などに防(さきもり)と烽(すすみ)を置き、筑紫に大堤を築いて水を貯えさせる。水城という。

**665年2月** 天智天皇は、百濟の百姓男女400余人を近江の国神前郡に住まわせ、3月に田を賜る。

**同年8月** 達率答木(火偏)春初(とうほんしゅんそ)を派遣して、長門国に城を築かせ、達率憶禮福留と四比福夫を筑紫国に派遣して大野城と椽城(基肆城)の2城を築かせる。

この時代の国家の仏教政策

**645年(大化元年) 8月** 癸卯条により、国家による寺院造営の奨励策が地方に浸透、7世紀中頃から後半に地方で寺院が造営された。

**685年(天武天皇14年) 3月 壬** 申条の奨励策により地方寺院が爆発的に増加した。

広島県北部に大寺院が建立された経緯について

年表にある白村江(はくすきえ)の戦いに日本から百濟に派遣された兵士の中に県北からも多くの参加者があったようです。三谿郡(現在の三次市)大領の祖先が出征する時に、「無事に生きて帰る事が出来たら、いろいろの神様のために、伽藍を建て

ます」と誓願して行った事により、生きて帰る事が出来たので、一緒に連れて帰った百濟の禅僧弘濟(ぐさい)に三谷寺を建ててもらった、と伝えられています。それが現在の寺町廃寺ではないかと言われています。調査年表によると、三谷寺建立は667年となっています。そして、伝神福寺は668年になっています。この年に高句麗滅亡の記録があります。

伝神福寺については詳細記録がありませんので、誰が誰を使って建てたかは解っていません。宮内村に住んでいた支配者が建てたであろう事は推測されます。

(次号に続く)



# どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

## 一 硬式テニス参加者募集 一

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

- ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎080-5610-2376)



## 洲澤陶芸教室 (電動ロクロほか成形全般)

- ・県大前教室 (0824-72-0686) 月謝 2,000 円  
金曜日 (毎週) 午後 1 時~4 時 30 分
  - ・敷信自治センター教室 (0824-72-0571) 月謝 1,000 円  
木曜日 (第二、第四) 午後 1 時~4 時 30 分
  - ・庄原小学校前教室 (0824-72-1074) 月謝 1,000 円 (月2回)  
月曜日~水曜日 (希望する日) 午後 1 時~4 時 30 分
- ※詳しくはお電話ください。0824-72-1074 (夜間を希望)  
洲澤悦二 (庄原市西本町 2-11-19)

# 陶芸 教室

## 《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。  
掲載は無料です。

## どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## 第3回 庄原さくらフェスティバル

庄原市民の憩いの場として昔から愛され、日本さくら名所100選にも選ばれた上野公園。さくらの開花時期に合わせたフェスティバルを今年も開催します。小さなお子様から年配の方まで、楽しめる催しがたくさんあります。

開催日：4月8日(日) ※雨天決行

時間：10時~16時

場所：庄原市上野総合公園 (芝生広場・陸上競技場施設周辺)

問合せ：庄原さくらフェスティバル実行委員会 (0824-72-2121)

発行：どら書房  
〒727-0012  
庄原市中本町 2-1-10  
☎090(9913)3052(赤川)  
e-mail: touzin@sannet.ne.jp  
年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン: ROUTE183  
協賛: 九日市愛好会

## 編集後記

◇本誌もいよいよ三年目に突入です。新たな気持ちでスタート、また一年よろしくお願ひします。

◇今回の県北新名所案内は神石高原町ですが、県北という地域区分には異論があるかもしれません。広い意味での県北、ということ、今後取り上げさせていただきます。

◇新・図書館ノート「思い出の一冊」は、引き続き三次市立図書館の職員の方々の連載です。新シリーズはインシャルではなく、有光館長作成の似顔絵を掲載。図書館を訪れて似顔絵の方を探してみても楽しいでしょうね。

◇花見のシーズン到来、どら書房も庄原さくらフェスティバルに参加します。

第207回

# 「庄原九日市」

平成30年

4月9日 (月) 9:00~13:00

## 「庄原九日市とは？」

天正年間（440年前）に物々交換で始まった市（いち）。  
昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

## 「TOPICS」

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

➡趣味の竹細工作品展

4月8日（日）～10（火） 10時～16時

★風龍

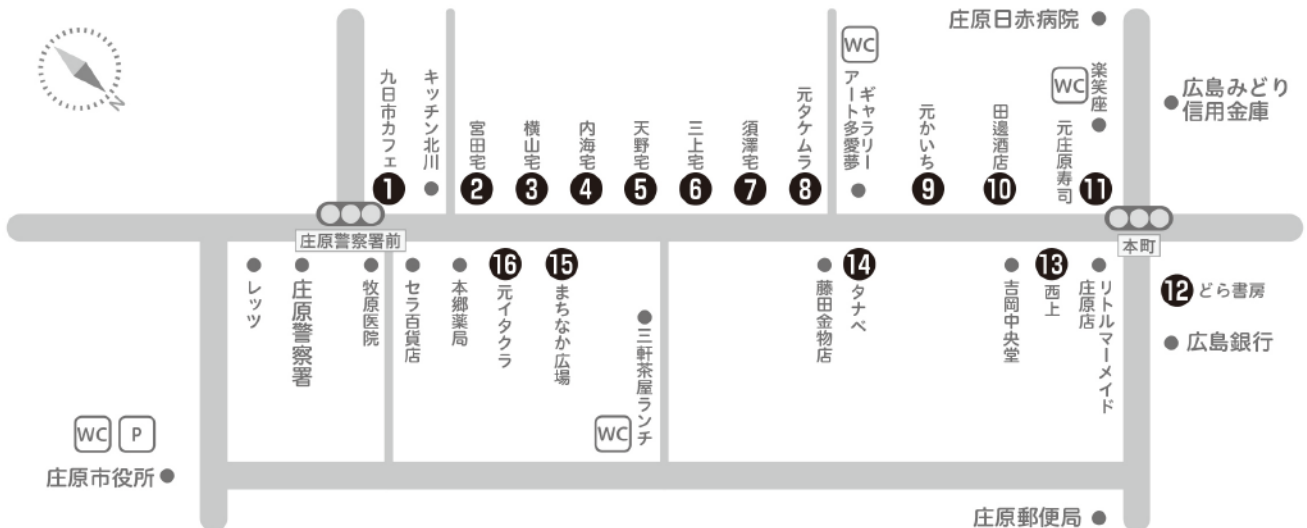
➡九日市スペシャル！餃子200円！

★楽笑座で「まかない食堂」「うた声喫茶」開催中。

★どら書房

➡月曜日と火曜日はお休み

## 「出店配置図」



① お休み

② ギャラリー三村

③ 昭助  
とらぢ  
二八そば加工所  
アーミッシュ  
さだっさ  
もりおか  
健康企画グループ

④ お休み

⑤ ちくちくはうす玉手箱

工房アム

かぐや姫

⑥ ROOM OF KEIKO  
めだかの学校

⑦ 農楽会

⑧ タツミ矢  
アパレルゴトウ

⑨ まなべ商事

⑩ 克國水産

⑪ お休み

⑫ お休み

⑬ 山本水産  
くんえん工房 香豚  
ハナピラタケ広島  
花田FF

⑭ 開盛社

⑮ 宮川屋  
田崎屋  
砂田海産  
佐藤園芸  
スプレモ

⑯ お福

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～ 九日市愛好会事務局  
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/0824-75-8285

ホームページ  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

